豊島支部 NEWS

明治大学校友会豊島区地域支部

会報 第73号 2023 年・夏

ホームページ http:// meiji-toshima.com
フェイスブック https://www.facebook.com/groups/210709222305133/

豊島区地域支部２０２３年初春交流会を開催しました

梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は校友会活動への格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

アフターコロナともいわれる状況下、各種の行動制限も解除され、日常が戻りつつあり、豊島区地域支部も例年通りの事業・活動を取り戻しつつあります。

令和５年２月４日（土）に、豊島区地域支部の『初春交流会』（会場：西池袋“地球飯店”）を開催し、コロナ禍でもあり、かつての参加者数には至りませんでしたが、近隣支部からの参加者も含めて４３名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

当日は、豊島区地域支部『初春交流会』の恒例・名物となっている“一般社団法人江戸消防記念会第四区十番組・八番組”の皆さんの木遣りで開始しました。白砂正人豊島区地域支部名誉支部長の乾杯の発生後は、先輩方の近況報告や若手新会員の自己紹介などとともに、久々の『初春交流会』での懇親を深めることができました。

橋爪孝則幹事がリーダーとなり校歌斉唱と、兼村仁幹事長と一般社団法人江戸消防記念会第四区十番組・八番組の皆さんとの三本締めで、楽しい対面での懇親会も閉会しました。

第１７回社会貢献活動見本市@SDGｓに参加しました

パネル展示に参加し、株式会社ケー・ビー・シー賞（蔵之助Ｇ）を受賞するとともに、明治大学校友会豊島区地域支部賞として協賛（協賛金：１万円）し、NPO 法人ピッコラーレ（妊婦にやさしいまちづくりを目指して、相談・研修活動などの取組）へ贈呈しました。

ミレイ会が再開しました

ミレイ会（原則、６０歳以上の退任役員などの有志の交流会。参加自由。幹事：山本守敏さん・増田治美さん）が令和５年４月２８日（金）に、巣鴨“たけやま”で再開しました。

当日は、山本守敏さん、増田治美さん、勝浦信男さん、伊藤治郎ご夫妻、柴山光夫さん、白砂名誉支部長、猪瀬典夫支部長、秋元弘正副支部長、坂本正秀幹事の１０名が参加し、あっという間の２時間の懇親会でした。今後、かつての２か月に１回の開催頻度に戻しての開催継続も確認されました。

東京都北部支部 2023 年度総会・懇親会を開催

令和５年６月３日に板橋区立グリーンホールにおいて、東京都北部支部 2023 年度総会・懇親会が対面方式で開催され、豊島区地域支部からは８名が参加し、2022 年度活動・決算・監査報告、2023 年度活動計画・予算（案）が承認されました。

役員改選においては、三森勲東京北部支部長の２期目続投とともに、豊島区地域支部関連では、兼村仁幹事長の北部支部副支部長に選任されました。また、秋元弘正副支部長、島村高彦副幹事長、松永康一幹事の北部支部役員への就任が報告されました。

訃　報　　謹んでご冥福をお祈りいたします

- ○ 中谷範行様（1963 年法学部卒）令和４年１２月１６日逝去／校友会本部や豊島区地域支部の役員など、長年のご尽力に感謝し、御礼申し上げます。
- ○ 高野之夫様（前豊島区区長）令和５年２月９日／豊島区地域支部の行事へのご参加など、多大なるご協力に感謝し、御礼申し上げます。

使用済み切手・書き損じハガキ・ベルマーク収集への協力お願い

身近な社会貢献活動として、使用済み切手・書き損じハガキを豊島区民社会福祉協議会へ寄付、ベルマークを豊島区教育委員会へ寄付を行っています。毎月開催している役員会で収集とりまとめしています。

校友の皆さんも収集活動にご協力の上、地域支部役員へお届け下さるようお願い申し上げます。

豊島区地域支部年会費納入のお願い

豊島区地域支部の会報の制作・郵送などの事務費・運営経費については、会員の皆さまからの年会費により運営しています。2022 年～2023 年の年会費の振込手続き（振込手数料はかかりません）がお済でない方や振込用紙が必要な方は、下記までお問合せ下さい。

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

■豊島区地域支部の活動に関する問い合わせ先：支部長　猪瀬典夫
携帯電話：090-5579-8856　E-mail アドレス：inose@macuass.co.jp

明治魂を伝える！・会社紹介：エム・ユー・エーアイランド
髙島裕一さん　1992 年農学部卒

明治大学卒業後、自動車ディーラーの関東マツダに入社し、お客様に恵まれ、ずっとトップセールスをやらさせていただきました。

ディーラーに勤めながら、昔からの夢でもあったプロボクシングのライセンスも帝拳ジムで取らせていただきました。

１９９９年７月、ライセンスを取得して２ヶ月後、お肉屋さんを経営していた最愛の父が、病で倒れてしまいました。父に元気になってもらうため、またお肉屋さんが出来るように、僕は会社を辞め、ボクシングを辞め、３０歳から、お肉を切るのを覚え、お肉屋さんを父の代理で３年間経営しました。

自営であれば、父が具合悪くなった時に、そばにいられて病院へ連れて行けるからです。お店でコロッケとかフライを買うお客様が、生ビールを飲めるようにもしました。しかし友達のたまり場にもなってしまい、商売が難しくなってしまい、自分が今までやってきた自動車全般の自営業をする決心をしました。

海を髙島という船が、進んでいけるような会社名にしたい。エム・ユー・エーアイランドを２００３年１月に開業しました。社名は、父と僕と弟の名前の頭文字をとって、お客様が名前をつけてくれました。

父の闘病と一緒に僕も自営業の車屋さんで闘い始めました。

モットーは、お客様のカーライフの幸せ重視。昔ながらの営業マンのスタイルを追求したい。お車の買い取り、新車中古車全メーカー販売、車検、点検、修理、板金、自賠責保険の代理店、オートクレジット、USS オークションの会員販売店をやっています。

アフターフォローの仕事を基盤としていまして、車検点検等の引き取り納車は、すべて自分が行っています。各ディーラー、民間工場とも提携しています。

仕事でお使いになるのは、もちろん、スポーツ走行もそうですが、車とは、交通機関の時間関係なしに移動出来るプライベート空間が、すごく魅力的で、人にとって大事なものだと考えています。家族でのドライブ、彼氏彼女とのドライブ、友達とのドライブ、一人悩んだ時のドライブ、そんな人が生きるために必要なプライベート空間をお客様が楽しんでいけるよう、全力を尽くしてお手伝いしたいです。そのためにも自分の心も身体も鍛え続けています。

そんなスタイルの車屋です。明治の名に恥じないよう、前へ！立ち向かっていきたいです。

今年で開業２１年目になります。出会えた人たち、これから出会う人たち、みんなの笑顔求めて頑張っていきます。

僕のお店を紹介する文章を書かせてくれた明治の先輩方、読んでいただいた明治の先輩、同級生、後輩の皆様、有難うございました！

会報への投稿募集：学生時代の思い出や、「明治魂を伝える」、「お店・会社紹介」など、校友の皆さんの本会報への投稿を募集しています。よろしくお願い申し上げます。

明治魂を伝える！・会社紹介：株式会社 PING-PONG COMPANY
前田雄紀さん　2009 年文学部卒

『卓球で暮らしていける世界』の創出

この度は、会報にてご紹介の機会をいただき、ありがとうございます。私は前田雄紀（まえだ ゆうき）と申します。鹿児島県で生まれ、卓球に青春を捧げ、柳川高等学校から明治大学文学部に進み、在学中には全日本選手権大会や国民体育大会にも出場しました。

卒業後は 3 年間サラリーマン生活を送り、2012 年から卓球プロコーチとして活動を始めました。私はカットマンという珍しい戦型の為、卓球女子日本代表のコーチとしてワールドツアーなどにも帯同しました。2021 年には、福島県郡山市で行われた全国教職員卓球選手権大会で、シングルス優勝・ダブルス優勝・団体準優勝を果たし、全日本クラブチーム選手権大会では３位という戦績も残すことが出来ました。

2022 年に株式会社 PING-PONG COMPANY を設立し、代表取締役に就任。東京の豊島区目白に「MOANA（モアナ）卓球倶楽部」をオープン。スタジオ事業とレッスン事業を行っております。下は小学生から、上は 87 歳まで、300 人以上の会員様にご利用いただいており、皆様、レベルアップを目指して真剣に卓球に取り組んでおられます。

日本では少子化が大きな問題としてクローズアップされておりますが、卓球界ではオリンピックや世界大会でのメダル獲得、プロリーグ（T リーグ）の開幕などで盛り上がりを見せ、競技人口が増加しております。国内で卓球を楽しんでいる人口は推定 1000 万人ともいわれ、日本卓球協会の登録人数（競技者数）は 30 万人を超えております。また、中学校の部活動人気ランキング 1 位は「卓球」という話もあり、今の子供たちには、一昔前の「卓球はダサい」というイメージは全くありません。これから更に卓球人気が加速する事を期待しております。

また、2022 年 7 月には卓球の普及や競技レベルの向上を目的とした「一般社団法人 日本卓球協議会」を発足。2022 年 12 月には卓球のメーカー様やスポーツ事業者様にご協賛いただき、当団体初の全国大会を開催する事が出来ました。今年の 5 月にはスポーツ庁より取り組みが認められ、【Sport in Life 2022 賞】を受賞する事が出来ました。

現在は新たなプロジェクトとして、多くの人手が必要な卓球大会がスマホ 1 つでスムーズに運営できる大会自動運営アプリ「ピンポンマップ」を鋭意開発しており、今年の夏にプレリリースする予定です。

今後の目標は、「卓球で暮らしていける世界」を創出することです。もっとお金が稼げるスポーツにしたい。今、子供が「卓球選手になりたい」と言っても、親は野球やサッカー、ゴルフなどを勧めるはずです。まずは、「卓球で暮らしていける世界」の第 1 歩として練習環境であるスタジオ事業、レベルアップに必要なレッスン事業を軸に、卓球界がもっと活性化するようなサービスを展開していく予定です。また、協議会の方では全国規模の大会を運営し、沢山の方々に卓球の素晴らしさを伝えると共に、選手の技術向上の場を提供していきます。

最終的には「卓球に関わるの全てのビジネスを網羅したい」と思っています。全力を尽くしていきますので、卓球やスポーツ業界にご興味のある方は、ぜひご支援を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。